杏林大学大学院国際協力研究科『大学院論文集』No. 8, 2011. 3

日本語の「N_1＋の＋N_2」の多義現象の研究

―中国語の“N_1＋的＋N_2”との対照研究―

辛　奕嬴

要　旨

文法の側面から見れば、日本語の「の」と中国語の「的」には似ているところがある。また、日本語の構造「N_1＋の＋N_2」と中国語の構造“N_1＋的＋N_2”とは典型的な多義構造に属する。本文は異なる言語の対照研究を通して、多義構造「N_1＋の／的＋N_2」の共通点と相違点を明らかにした。最後に、多義構造を引き起こす条件もあげた。

キーワード：の　的　多義構造　日中対照

1．はじめに

多義文は普遍的な言語現象であり、多くの研究者の関心を引き付けてきた。彼らの研究は言語学領域だけではなく、心理学領域、人工知能領域などさまざまな領域に及んでいる。本研究では言語学の側面から言語学の理論で、日本語の構造「N_1＋の＋N_2」の多義を中国語の構造“N_1＋的＋N_2”と対照して研究する。最後に、２つの異なる言語の共通点と相違点を明らかにして、多義の生じる条件をあげる。

本文は次の（ア）から（エ）の４つの問題をめぐって、「N_1＋の／的＋N_2」の多義構造を対照して研究する。

（ア）　どのような名詞が構造「N_1＋の／的＋N_2」に入る時、多義が生じるのか

（イ）　なぜ構造「N_1＋の／的＋N_2」はしばしば多義構造になるのか

（ウ）「N_1＋の／的＋N_2」の多義構造の生じる条件は何であるか

（エ）「N_1＋の／的＋N_2」の多義構造はどのように解釈されるのか

初めに、２節において多義構造を考察して、（ア）の問題に答える。次に、３節において日本語の「N_1＋の＋N_2」と中国語の「N_1＋的＋N_2」の対照的分析を行い、（イ）、（ウ）、（エ）の３つの問題に答える。最後に、まとめを行う。

2．多義構造の考察

多義文の生じる原因はたくさんある。多義構造はその一つである。多義構造というのは、1つの構造が2つ以上の意味を伝達することができる構造である。日本語と中国語では、構造「N_1＋の／的＋N_2」が典型的な多義構造に属するので、本文は「N_1＋の／的＋N_2」を例として、多義現象を検討する[1]。

構造「N_1＋の／的＋N_2」を検討する前に、N_1、N_2、「の」、「的」を簡単に説明したい。N_1とN_2は名詞を示す。益岡・田窪（1992）によれば、名詞は物名詞、人名詞、事態名詞、場所名詞、方位名詞、時間名詞の6種に分類できる。筆者は方位名詞は認知視点の問題に属すると考えるので、本論文では、方位名詞の問題を検討しない。物名詞（$N_{物}$）、人名詞（$N_{人}$）、事態名詞（$N_{事態}$）、場所名詞（$N_{場所}$）、時間名詞（$N_{時間}$）の5種だけを検討することにする。

「の」は日本語で機能語と称され、「的」は中国語で“虚词”と称される。機能語でも、“虚词”でも、両者には2つの共通点がある。すなわち、内容語、または句に付き、文法の意味を伝達することと、単独では文の成分になることができないことである。つまり、日本語の機能語「の」と中国語の“虚词”「的」は具体的な意味を持たず、関係を示すだけである。

『広辞苑　第五版』（1998）によると、「の」は連体格助詞として、次の意味をもつ。（10以降は省略）

1．場所を示す。　（東京のおじいさん）
2．時を示す。　（昨日の出来事）
3．位置、方角を示す。　（机の上）
4．対象を示す。　（自転車の運転）
5．所有者を示す。　（私の本）
6．所属を示す。　（本校の生徒）
7．同格の関係であることを示す。　（歩兵の官の人の厨に営む人あつて）
8．原料、材料を示す。　（毛糸のセーター）
9．比喩を示す。　（花の都パリ）

《現代漢語虚詞》（2000）によれば、「的」は連体修飾語と中心語の間の5種類の関係を示している。すなわち、所属関係、修飾関係、制限関係、メトニミー関係、同格関係である。また、《現代漢語虚詞散論》（1999）によれば、構造“N＋的”は以下の意味を持っている。（5以降は省略）

1．材料、原料を示す。（木头的）
2．所属を示す。　（学校的）
3．時間を示す。　（昨天的）

---

[1] 本文は複雑な構造を考えず，簡単な構造だけを分析する。すなわち，構造「N_1＋の／的＋N_2」に入るN_1とN_2はそれぞれ単一の名詞である。

4．場所を示す。　（苏州的）

以上から見れば、日本語の「の」と中国語の「的」は機能語として、示す意味関係が似ている。したがって、日本語の構造「N_1＋の＋N_2」が多義を生じる文脈では、中国語の構造「N_1＋的＋N_2」でも多義を生じると考えられる。すなわち、日本語と中国語の構造「N_1＋の／的＋N_2」の多義が生じる条件は同じである。以下、構造「N_1＋の／的＋N_2」におけるN_1、N_2と「の／的」の関係を示しながら、その考え方を検証する。

表2-1「N_1＋の／的＋N_2」の構造：

N_2 ＼ N_1	$N_{人}$	$N_{物}$	$N_{時間}$	$N_{場所}$	$N_{事態}$
$N_{人}$	医者の父※[2]	英語の先生	あの時代の人	中国の友だち※	出張の課長
	医生的父亲※	英语老师[3]	那个时代的人	中国的朋友※	出差的课长
$N_{物}$	太郎の本※	子犬の靴※	今日の新聞	四川の料理※	火事の家
	太郎的书※	小狗的鞋子※	今天的新闻	四川的菜※	着火的房子
$N_{時間}$	姉の誕生日	パソコンの今日	去年の今日	八王子の今日	死亡の時
	姐姐的生日	电脑的今天	去年的今天	八王子的今天	死亡的时候
$N_{場所}$	花子の学校※	カタツムリの家[4]	現在の東京	北野の公園	試合の会場
	花子的学校※	蜗牛的家	现在的东京	北野的公园	比赛的会场
$N_{事態}$	主婦の調査※	火山の噴火	来月の旅行	韓国の選挙	失敗の調査※
	主婦的調査※	火山的喷火	下月的旅行	韩国的选举	失败的调查※

表２－１からわかるように、構造「N_1＋の／的＋N_2」では、日本語でも中国語でも、一般に、「$N_{時間}$」は「N_1＋の／的＋N_2」に入る時、多義構造を起こさないが、「$N_{人}$」、「$N_{物}$」、「$N_{場所}$」、「$N_{事態}$」の４者の組み合わせは多義構造を起こす可能性がある。すなわち、多義構造を起こす組み合わせは「$N_{人}$＋の／的＋$N_{人}$」、「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」、「$N_{人}$＋の／的＋$N_{場所}$」、「$N_{人}$＋の／的＋$N_{事態}$」、「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」、「$N_{場所}$＋の／的＋$N_{人}$」、「$N_{場所}$＋の／的＋$N_{物}$」、「N事態＋の／的＋$N_{事態}$」の８者である。ここで、それらの多義構造を４つの組み合わせにまとめて、別々に検討する。すなわち、「$N_{人}$＋の／的＋N_2」（「$N_{人}$＋の／的＋$N_{人}$」、「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」、「$N_{人}$＋の／的＋$N_{場所}$」）、「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」、「$N_{場所}$＋の／的＋N_2」（「$N_{場所}$＋の／的＋$N_{人}$」、「$N_{場所}$＋の／的

[2] ※は多義があることを示す。

[3] 普通、中国語の「職場＋職種」の構造では「的」が省略される。（方美麗 2004）

[4]「カタツムリの家」は２つの意味を示せる。１つ目は「動物としてのカタツムリがもつ家」である。それは様態を描写する。２つ目は「狭い家」である。その意味はカタツムリの属性に基づいた比喩である。このように、「カタツムリの家」が２つの意味を表すが、このような比喩的な特殊な多義構造は本文では検討しない。

＋$N_{物}$」)、「N_1＋の／的＋$N_{事態}$」(「$N_{人}$＋の／的＋$N_{事態}$」、「$N_{事態}$＋の／的＋$N_{事態}$」) である。

3．対照分析

3-1 「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の多義構造

表２－１からわかるように、N_2が人名詞、物名詞、場所名詞、事態名詞である時、「$N_{人}$＋の／的＋N_2」が多義構造になりやすい。また、N_2が時間名詞である時、「$N_{人}$＋の／的＋N_2」は多義構造にならない。この理由について、次の２つの側面から解明したい。

まず、人間はさまざまな属性を持っている。例えば、人間は１つの実体であるとか、人間はご飯を食べて、本を読んで、いろいろな行為をするとか、人間は抽象的な経験、体験を持つとかなどである。$N_{人}$は人名詞なので、人間の属性を保持している。すなわち、$N_{人}$は人間のさまざまな属性を包含している。

また、構造「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の「の」が連体格助詞として、２つの名詞をつなげるので、$N_{人}$とN_2は１種の関係になる。もし、$N_{人}$のさまざまな属性がN_2により特定されれば、N人とN_2は２種以上の関係になる。このようにして、構造「$N_{人}$＋の＋N_2」は多義構造になる。例えば、

（１） 医者の父（医生的父亲[5]）

（２） 太郎の本（太郎的书）

（３） 花子の学校（花子的学校）

（４） 主婦の調査（主妇的调查）

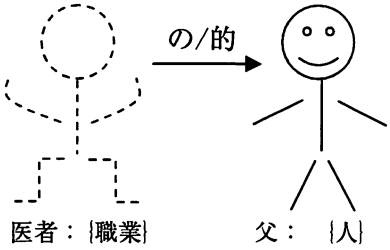
例文（１)、(２)、(３)、(４）は多義構造である。「医者」、「太郎」、「花子」、「主婦」は人間で、さまざまな人間の属性を持つ。また、「父」、「本」、「学校」、「調査」はそれぞれ人、物、場所、事態を示しており、人間とも関係がある。

例文（１）の「医者」と「父」は人名詞なので、人間のさまざまな属性を持っている。例えば、人は働くことができること、人は両親がいることなどである。また、「医者」は人間の基本的な属性を除いて、職業を示すことができる。「父」は人間の基本的な属性を除いて、呼称を示すことができる。このように、「医者」と「父」は２つの関係になる。もし、「医者」の職業という属性が「父」の人という属性を特定化すれば、「医者の父」の意味は「父は医者」である。この時、「医者」と「父」は同格関係である。もし、「医者」の人という属性が「父」の呼称という属性を特定化すれば、「医者の父」の意味は「私は医者であり、父は私の父、他の人の父ではない」である。

---

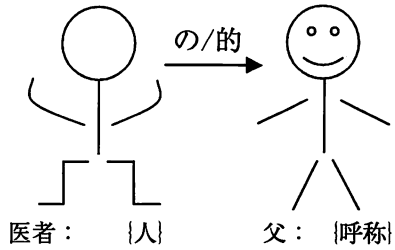
[5] 第２節では、日本語「の」と中国語「的」の示す意味関係が同じであり、多義構造に生じる要素も同じであることをのべた、本節では、特殊な原因がない限り、日本語と中国語を分けずに検討する。日本語の例を扱い、一緒に分析する。

この時、「医者」と「父」は所有者の関係になる。図1、2



「父」だけが人である

図1



「医者（私）」と「父」で人は2人である

図2

「医者の父」と「医生的父亲」は日本語でも中国語でも多義構造であるが、「医生的父亲」は中国語ではさらに多義になりやすい。日本語では、文脈によって呼称がしばしば違うということがある。例えば、「父」と「お父さん」の違いなどである。もちろん、場合によっては、その制限がない。例えば、「父の日」である。

「医者」と「父」が構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{人}$」に入る時、その構造は多義構造になるが、「姉の兄」（姐姐的哥哥）は多義になりにくい。「姉」と「兄」は同じく、呼称という属性を示すから、多義になりにくい。

構造「$N_{人}$＋の／的＋N_2」では、N_2が人名詞で、N_1も人名詞で、しかも、N_1が職業を示す時、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{人}$」が多義構造になる可能性がある。

例文（2）のN_2は物名詞である。N_2と$N_{人}$には特定的な関係がある。例えば、

（2）　太郎の本（太郎的书）

「本」には以下の属性がある。すなわち、本が小さい実体として、他の実体に所有されることができること、本が読まれること、本が書かれること、本が内容を伝達することなどである。また、属性「本が小さい実体として、他の実体に所有されることができること」、「本が読まれること」、「本が書かれること」３者の属性の主体は人である。人は経験や生活を持っている。しかも、それらの経験や生活は記録されることができる。このように、「本」の属性と「人」の属性は結び付けられる時、３つの異なる関係を示すことができる。

太郎の本
太郎的书
- 内容が太郎についての本である。　⇨　（対象を示す）
- 内容是关于太郎的书。
- この本の所有者は太郎である。　⇨　（所有者を示す）
- 太郎是书的所有者。
- この本は太郎の書いたものである。　⇨　（主体を示す）
- 太郎写的书。

「太郎の本」と“太郎的书”は多義であるが、「太郎の腕時計」と“太郎的手表”は多義ではない。「腕時計」もいろいろな属性を持っているが、この場合「人間の所有物」という属性だけが特定化される。だから、「太郎の腕時計」は多義ではない。

すなわち、「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」では、N_2が作品であれば、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」は多義になる。例えば、

（5） 田中の絵／写真（田中的画／摄影）

作品のほかにも、他の名詞が構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」に入る時、多義になることがある。例えば、

（6） 山田のプレゼント／手紙／年賀状（山田的礼物／信／贺卡）

プレゼントや手紙や年賀状は作品ではないが、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」に入る時、多義になることがある。

構文文法によれば、田中とプレゼント／手紙／年賀状は２つの構造に代入できる。すなわち、＜ある人に　あげる　ある物＞と＜ある人が　くれる　ある物＞である。プレゼント／手紙／年賀状はある物に属して、田中はある人に属する。したがって、田中とプレゼント、手紙、年賀状には２つの異なる関係がある。「田中のプレゼント／手紙／年賀状」は多義構造である。

また、抽象的な物名詞もしばしば、多義構造を起こす。例えば、

（7） 先生の　お祝いのスピーチ（老师的贺词）

同じように、「先生」と「お祝いのスピーチ」は構造＜ある人　あげる／くれる　ある物＞に属するので、２つの異なる関係を伝達することができる。

すなわち、N物が作品である場合、または＜ある人　あげる／くれる　ある物＞の構造に代入できるものである時、「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」は多義構造になる。

例文（3）「花子の学校」（花子的学校）は「$N_{人}$＋の／的＋$N_{場所}$」の構造であるが、例文（2）「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」と同じ方法で説明できる。学校は場所として、場所の属性を持っている。すなわち、ある空間範囲に、人、または物を収容させることができる。ただ、学校は普通の場所と違って、人間が主体として経営する場所である。このように、学校の属性が人の属性によって特定化されて、２つの関係が伝達されることになる。例えば、

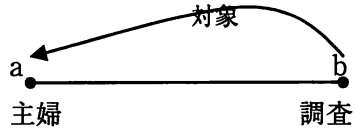
花子の学校
- この学校は花子が勉強している場所である。 ⟹ （所属を示す）
- 花子上学的学校。
- この学校の経営者は花子である。 ⟹ （所有者を示す）
- 花子经营的学校。

例文（8）もこのような多義構造である。

（8） 花子の会社／病院。（花子的公司／花子的医院）

ただ、「花子の国」は多義ではない。その原因は「国」に所属先と所有者の属性があっても、「国」の所有者は個人ではなく、集団であるからである。つまり、「$N_{人}$＋の＋$N_{場所}$」の構造が多義になる時、その場所の所有者、所属者は必ず個人である。

例文（4）「主婦の調査」（主妇的调查）の「調査」（N_2）は事態名詞[6]である。「調査」は事態名詞として、方向性がある（対象を持つ）ので、「調査」と「主婦」の間に、2つの関係を形成する。つまり、「調査」は「主婦」を指向する時、「主婦の調査」の意味は「調査の対象は主婦だ」であり、「調査」が他の要素を指向する時、「主婦の調査」の意味は「調査の施行者は主婦だ」である。すなわち、事態名詞が方向性を持つ時、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{事態}$」は多義になりやすい。ただ、事態動詞が方向性を持たない時、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{事態}$」は多義になりにくい。例えば、「王さんの成功」である。



主婦の調査（調査の対象は主婦だ）

図3

主婦の調査（調査の施行者は主婦だ）

図4

以上、「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の多義構造を分析した。すなわち、N_2の属性は$N_{人}$によって、1つ以上の属性を特定化されて、または、N_2は事態名詞として、方向性を持つ時、「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の構造は多義になる。

また、N_2が時間名詞の時、時間は1つだけの属性しか持たないので、「$N_{人}$＋の／的＋N_2」は多義にならない。表2-2は多義構造「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の総括である。

表2-2　多義構造「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の必要条件：

$N_{人}$＋の／的＋N_2	必要条件
N_2：人	$N_{人}$は人、または、職業を示すこと
N_2：物	①作品を示す名詞
	②構造＜ある人　あげる／くれる　ある物＞にあてはまること
N_2：場所	名詞の所有者は個人である。または、所属者は人である
N_2：事態	方向性を持つこと

[6] 事態名詞については、3-4節を参考のこと。

3-2 「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」の多義構造

前節、「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の多義構造を検討した。結論としては、人名詞が人の属性を持っているので、N_2の属性が$N_{人}$のさまざまな属性と関連する度に、異なる関係が起こされる。それで、多義の関係が生じる。

「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」では、２つの名詞が両方とも物名詞である。一般に、物名詞の属性は有限で、しばしば、構造「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」では、１つ目の物名詞は擬人化される（1つ目の名詞は「$N_{物1}$」と表記し、2つ目の名詞は「$N_{物2}$」と表記する＝「$N_{物1}$＋の／的＋$N_{物2}$」）。このように、$N_{物1}$は人の属性を承継して、2つ目の物名詞と関係を持つことになる。この時、多義を起こす可能性がある。例えば例文（９）である。

（９） 子犬の靴（小狗的鞋子）

「子犬」は「$N_{物1}$」であり、「靴」は「$N_{物2}$」である。名詞は事物の名称を示すので、「子犬」と「靴」は具体的な名詞として、2つの異なる実体の名称として示せる。ただ、「子犬」と「靴」には1つの異なるところがある。すなわち、「子犬」は有情名詞であり、「靴」は非情名詞である。有情名詞はしばしば擬人化される。したがって、「子犬」は$N_{人}$と$N_{物}$という２種類の名詞に属する。「犬」は$N_{物}$として、事物を示す。その時、「靴」を修飾すれば、「子犬の靴」の意味は「靴の形状は犬だ」となる。また、「犬」が擬人化された$N_{人}$として示されれば、所有者を示すことになる。「子犬の靴」の意味は「靴の所有者は子犬だ」になる。このように、「子犬の靴」（狗的鞋子）は多義になる。図５

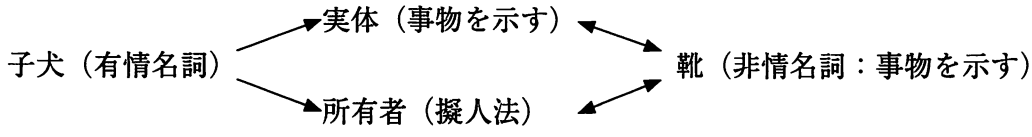


図５　子犬の靴

「子犬の靴」は２つの意味を持っているが、一般に「靴の所有者は子犬」の意味の方が他の意味よりもっとわかり易いと考えられる。この原因は同じ語彙の異なる意味を選択することには優先性があるということである。この優先性はしばしば語彙の頻度効果に影響される。例えば、一般に、「犬」は１つの有情物として、人間に認知される。したがって、「子犬の靴」と聞く時、「犬」が擬人化されて、人の属性を承継して、「靴の所有者は子犬だ」の意味として認知される傾向がある。

具体的な名詞が構造「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」に入る時、擬人化を通して、構造「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」は多義になるが、抽象的な物名詞が構造「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」に入る時、$N_{物1}$が擬人化されても、多義構造にならない。例えば、

（10） 子兎のアイデア （小兔的思想）

例文（10）と例文（9）の構造は同じであるが、例文（10）は多義ではない。その原因は、例文（9）の「靴」は具体的な名詞で、例文（10）の「アイデア」は抽象的な名詞であるからである。もし「子兎のアイデア」が擬人されなければ、「子兎のアイデア」は意味がない。ただ、もし「子兎」が擬人化されれば、「子兎」と「アイデア」の間に、１つだけの関係が成立する。

このように、多義構造「$N_{物1}$＋の／的＋$N_{物2}$」の形成条件は$N_{物1}$が有情名詞か、非情名詞でも擬人化される可能性のあるものである。また、$N_{物2}$は抽象的な名詞ではない。

3-3 「$N_{場所}$＋の／的＋N_2」の多義構造

場所名詞は来源と所属という２つの異なる物理空間の属性を持つ。したがって、構造「$N_{場所}$＋の／的＋N_2」には２つの関係があるはずである。N_2と$N_{場所}$２者の論理関係が成立する時、構造「$N_{場所}$＋の／的＋N_2」は多義構造になる。例えば、

（11）　中国の友だち（中国的朋友）

（12）　四川の料理（四川的菜）

例文（11）では、「中国」は場所名詞であり、来源と所属２つの属性を示す。「友だち」と「中国」には２種の論理関係がある。「中国」が来源の属性で、「友だち」を修飾する時、「中国の友だち」の意味は「友だちは中国から来た」である。例えば、アメリカでAが友達に会った後で、BがAに質問する。

B：さっきの人はAさんの友だちですか？

A：はい、そうです。

B：彼はどこの友だちですか

A：中国の友だちです。

この時、「友だち」は中国人であるが、アメリカに住んでいる。「中国」は彼の国籍（来源）である。

また、「中国」が所属の属性を持って、「友だち」を修飾する時、「中国の友だち」の意味は「友だちは中国にいる」になる。その時、その友だちは中国人であるか、中国人ではないか、２つの可能性がある。例えば、AとBは外国人である。以下は彼らの対話である。

A：Bさん１人で中国で寂しい時、何をしますか？

B：私は中国に多くの友だちがいます。普通、中国の友だちといっしょに遊びます。

この例では、中国と友だちは所属の関係にある。「中国の友だち」は「中国」に属していて、「中国」に住んでいるが、「多くの友だち」の国籍は必ずしも中国とは限らない。

このように、「中国」と「友だち」は２種の異なる論理関係を形成する。

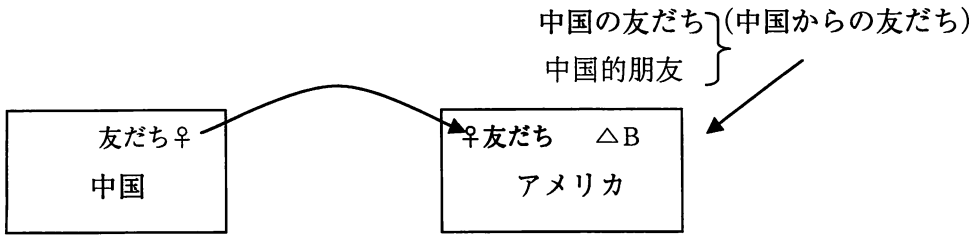


図6　中国の友だち　(中国から来た友だち)

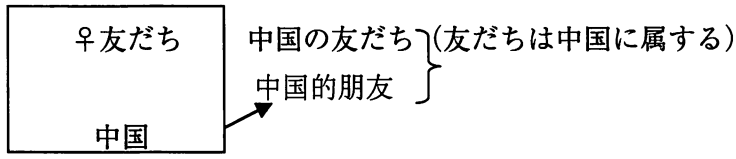


図7　中国の友だち　(中国人である友だち)

「中国の友だち」が多義になる原因は「中国」に所属と来源2者の属性があるからである。ただ、一般に、人間が「中国の友だち」と聞く時、「中国」の所属の属性の方が来源の属性より優先されるものと考えられる。その原因は語の使用頻度の影響である。「中国」は所属の属性を示すことのほうが一般的だと考えられる。

例文(12)「四川の料理」は例文(11)と同じ論理関係にある。「四川」が所属を示す時、「料理」は「四川」に属して、「四川」が来源を示す時、「料理」は四川から来たものを表す。

ただ、すべての場所名詞が構造「$N_{場所}$+の/的+N_2」に入ったとき、多義を生じるわけではない。例えば、「学校」、「図書館」などである。

(13)　学校の料理(学校的菜)

(14)　図書館の本(图书馆的书)

(13)と(14)は多義構造にはなりにくい。「料理」は「学校」に属して、「本」は「図書館」に属する。「学校」と「図書館」には所属の属性があるが、来源の属性はほとんどない。すなわち、「料理」と「本」は「学校」と「図書館」に属するが、「学校」と「図書館」は「料理」と「本」2者の来源にはなりにくい。同じ関係で、抽象的な物名詞は構造「$N_{場所}$+の/的+N_2」に入る時、多義を生じない。

このように、多義構造「$N_{場所}$+の/的+N_2」の生じる条件は、「$N_{場所}$」が必ず地名を示す名詞で、N_2は抽象的な名詞ではないということである。

3-4　「$N_{事態}$+の/的+$N_{事態}$」の多義構造

事態名詞は名前から見れば分かるように、一種の事態を示す。すなわち、名詞とし

て、状態性、または非状態性の事態を示す。例えば、「研究」、「開始」、「中止」、「失敗」などである。

一般に、事態名詞が構造「$N_{事態}$＋の／的＋$N_{事態}$」に入る時、多義構造は生じない。事態名詞は動詞の性質があるので、普通、２つ名詞の順序をはっきり示すことができる。したがって、事態名詞は構造「$N_{事態}$＋の／的＋$N_{事態2}$」に入る時、多くの限定を受ける。

構造「$N_{事態1}$＋の／的＋$N_{事態2}$」に入った事態名詞が示す事態は時間的な前後関係が決められるので、$N_{事態1}$と$N_{事態2}$の順序も決められる。したがって、事態名詞のすべての属性が特定化の対象になるわけではない。事態名詞は他の名詞のように自由に多義構造を生じるわけではない。例えば、研究の中止（研究的终止）、説明の拡充（说明的扩充）、研究の進展（研究的进展）などである。「研究の中止」では、「研究」と「中止」が同じく事態名詞であるが、構造「$N_{事態1}$＋の／的＋$N_{事態2}$」での地位が異なっている。「研究」が「中止」に先立つ。このように、「研究」と「中止」の間に、特定的な限定関係があるので、多義を生じない。ただ、すべての事態名詞が構造「$N_{事態1}$＋の／的＋$N_{事態2}$」に入る時、多義を生じないというわけではない。例外もある。例えば、「失敗の調査」（失败的调查）。「失敗」と「調査」は時間関係があるが、「調査」に方向性があるので、「失敗」と「調査」の２つの論理関係が成り立つ。すなわち、もし、「失敗」が「調査」に先立ったら、「調査」の対象は「失敗」したことである。もし、「調査」が「失敗」に先立ったら、「失敗」は「調査」を修飾し、調査か失敗したことになる。このように、「失敗の調査」は多義になる。

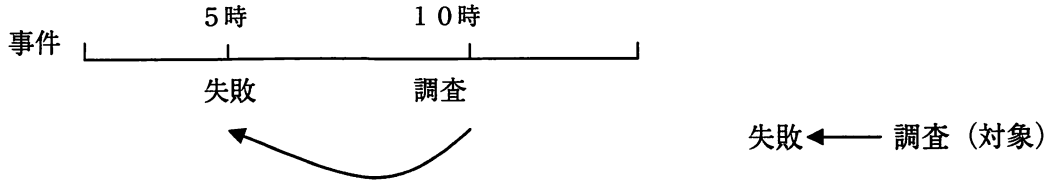


図８　失敗の調査　（失敗したことを調査する）

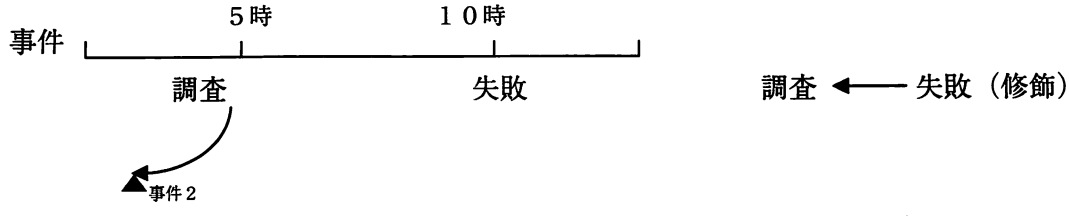


図９　　失敗の調査　（何かの調査か失敗した）

一般に、２つの事態名詞が「$N_{事態1}$＋の／的＋$N_{事態2}$」に入る時、多義構造を生じることはほとんどない。ただ、もし、事態名詞が方向性を持って、しかも、２つの名詞が修飾関係にあれば、構造「$N_{事態1}$＋の／的＋$N_{事態2}$」は多義構造になる可能性がある。

3-5　3節のまとめ

以上、日本語と中国語の構造「N_1＋の／的＋N_2」を分析した。対照分析を通じて、構造「N_1＋の／的＋N_2」において、日本語と中国語の多義の生じる原因が同じであることが確認できた。ここで、１つの表にまとめておきたい。

表2-3　構造「N_1＋の／的＋N_2」の多義と非多義２者の条件：

N_1＋の/的＋N_2		多義	多義を生じる条件
$N_{1人}$	$N_{2人}$	○	N_1は人、または、職業を示すこと
	$N_{2物}$	○	①N_2は作品を示す名詞 ②構造＜ある人　あげる／くれる　ある物＞に当てはまること
	$N_{2時間}$	×	
	$N_{2場所}$	○	N_2の所有者は個人である。または、N_2の所属者は人であること
	$N_{2事態}$	○	N_2は方向性を持つこと
$N_{1物}$	$N_{2人}$	×	
	$N_{2物}$	○	$N_{物1}$は有情名詞で、擬人化できる。また、$N_{物2}$は抽象的な名詞ではない。
	$N_{2時間}$	×	
	$N_{2場所}$	×	
	$N_{2事態}$	×	
$N_{1時間}$	$N_{2人}$	×	
	$N_{2物}$	×	
	$N_{2時間}$	×	
	$N_{2場所}$	×	
	$N_{2事態}$	×	
$N_{1場所}$	$N_{2人}$	○	N_1は地名を示す。N_2は抽象的な名詞ではない。
	$N_{2物}$	○	
	$N_{2時間}$	×	
	$N_{2場所}$	×	
	$N_{2事態}$	×	

$N_{1事態}$	$N_{2人}$	×	
	$N_{2物}$	×	
	$N_{2時間}$	×	
	$N_{2場所}$	×	
	$N_{2事態}$	○	事態名詞は方向性がある、また、N_1 と N_2 は修飾関係がある。

4．まとめ

この論文では日本語の「N_1＋の＋N_2」の構造と中国語の「N_1＋的＋N_2」の構造の分析を通して、日本語の構造「N_1＋の＋N_2」と中国語の構造「N_1＋的＋N_2」の多義の生じる条件と原因は同じであるという結論を出した。

ここで、この論文で述べた多義構造「N_1＋の／的＋N_2」を簡単にまるめと、次（オ）から（ク）までのようになる。

（オ）「$N_{人}$＋の／的＋N_2」の多義構造

N_1 と N_2 が共に人名詞に属する時、もし、N_1 は人名詞で、しかも、職業を示せば、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{人}$」は多義になる。N_1 が人名詞で、N_2 が物名詞に属する時、もし、N_2 が作品を示す名詞であるか、または、N_1 と N_2 が構造＜ある人　あげる／くれる　ある物＞に代入できれば、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{物}$」は多義になる。N_1 が人名詞で、N_2 が場所名詞に属する時、もし、N_2 の所有者が個人であるか、または、N_2 の所属者が人であれば、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{場所}$」は多義になる。N_1 が人名詞で、N_2 が事態名詞を示す時、もし、N_2 が方向性があれば、構造「$N_{人}$＋の／的＋$N_{事態}$」は多義になる。

例えば、医者の父、太郎の本、花子の学校、主婦の調査、など。

（カ）「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」の多義構造

N_1 と N_2 が共に物名詞である時、もし、N_1 が有情名詞で、しかも擬人化されることができれば、構造「$N_{物}$＋の／的＋$N_{物}$」は多義になる。

例えば、子犬の靴、など。

（キ）「$N_{場所}$＋の／的＋N_2」の多義構造

N_1 が地名を示す名詞で、しかも N_2 が抽象的な名詞ではない時、構造「$N_{場所}$＋の／的＋N_2」は多義になる。

例えば、中国の友だち、四川の料理、など。

（ク）「$N_{事態}$＋の／的＋$N_{事態}$」の多義構造

一般に、この構造が多義を起こすことはほとんどない。ただ、もし、事態名詞が方向性を持って、しかも N_1 と N_2 が修飾関係にあれば、構造「N_1＋の／的＋$N_{事態}$」は多義を引き起こすことがある。

例えば、失敗の調査、など。

この論文では、日本語と中国語の例を使って、構造「N_1＋的＋N_2」の多義と非多義を解釈検討した。ただ、多義は複雑な言語現象であり、名詞が多くの種類をもつので、この論文ではマクロ的に多義構造「N＋の／的＋N」を研究したことになる。

参考文献

庵功雄　高梨信乃　中西久実子　山田敏弘（2002）『日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク

金春子（1991）「中国語の助詞「的」と日本語の助詞「の」の同異点について」『福井工業大学研究紀要』第21号

新村出（1998）『広辞苑　第五版』岩波書店

孫淑華（2004）「中国語の「的（de)」と日本語の「の」の対応と非対応」『鳥取大学大学教育総合センター紀要』第1号

鳥井克之（2008）『中国語教学（教育・学習）文法辞典』東方書店

野田尚史（2002）「日本語のあいまい文」『日本ファジイ学会誌』Vol.14 No.1

方美麗（2004）「中国語の「的」と日本語の「の」の意味用法の考察—日中対照研究—」『外国語教育論集』26

益岡孝志　田窪行則（1992）『基礎日本語文法（改訂版)』 くろしお出版

松村明（1971）『日本文法大辞典』明治書院

Goldberg. Adele E.（1995）*Constructions: a construction grammar approach to argument structure.* University of Chicago Press

黄伯荣，廖序东（2002）《现代汉语》 下册（增订三版）高等教育出版社

陆俭明，马真（1999）《现代汉语虚词散论》 语文出版社

齐沪扬，张谊生，陈昌来（2002）《现代汉语虚词研究综述》 安徽教育出版社

王黎今（1999） 歧义式的中日对比思考 《中山大学学报论丛》 第五期

文炼，允贻（1985）《歧义问题》 黑龙江人民出版社

余弦 曲维 关春影（2002）《日英汉对照现代日语语法》 大连理工大学出版社

张谊生（2000）《现代汉语虚词》 华东师范大学出版社